

病床数適正化事業による病床削減について

構想区域名：周南保健医療圏

対象医療機関名：地域医療支援病院オープンシステム徳山医師会病院

1 地域の状況			
地域の現状と課題		周南医療圏について、地域医療構想の必要病床と令和7年病床機能報告を比較すると、高度急性期240床、急性期9床、慢性期290床過剰、回復期53床不足で、全体では509床過剰な状況である。人口減少・高齢化に伴う中長期的な患者像の変化に対応するため、地域全体として医療機関ごとの機能分化促進が課題となっている。	
2 自施設の状況			
自施設の現状 (変更前)		当院は、急性期87床、回復期143床、慢性期76床を保有している。 しかし、看護師確保が困難な状況が続いており、令和6年9月より回復期48床→令和7年10月より50床を休床中である。 これを契機に、病院全体の人的資源をはじめとする経営資源の最適化を迫られている状況にある。	
病床数削減について	削減の内容 削減の理由について	回復期50床を削減する 削減理由は、 ①看護師不足によって、人員配置を適正化する必要が生じたため ②令和9年度以降、介護医療院36床開設予定(申請中)であり、転換のため 地域においては回復期は不足している状況にあるが、この2年で老健が2施設(157床)閉所しており、介護度が高いが医療必要度の低い在宅復帰困難な方への対応が必要なため	
	対象の病棟・病床の概要	削減する病床は、回復期50床で令和6年9月より休床中である。	
	新興感染症に係る協定 締結医療機関の確保病床について	新興感染症に係る協定の締結の有無について	協定あり・協定なし
		今回の削減が当該協定の確保病床に与える影響について	削減する病床は、当該確保病床ではないので、当該協定への影響はない
3 病床削減をしても入院医療の継続に支障がない理由			
理由		従前より休床中の病床を削減するにすぎず、削減後の残り256床に人的・物的資源を集約することで、継続的な入院医療を今後も提供できるものとする。	

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R6	削減時期	R7	削減時期	R8	削減時期	計
高度急性期							
急性期							
回復期					50	令和9年2月	50
慢性期							
合計					50		50

【参考：R7病床機能報告(周南保健医療圏の状況)】

病床区分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・廃止予定	合計
報告	①R7(2025)現状	463	754	789	1,027	23	3,056
	②R8(2026)予定	463	743	813	1,003		3,022
構想	③R7(2025)必要数	223	745	842	737		2,547
④構想との差(R7)(①-③)		240	9	△ 53	290	23	509
⑤構想との差(R8)(②-③)		240	△ 2	△ 29	266		475

対応方針（2025プラン）の変更（地域医療支援病院オープンシステム徳山医師会病院）

病床機能報告における 病床数（7月1日時点）			対応方針（2025プラン）の内容					備考 （対応方針の実 施予定時期等）
機能 区分	R7 現在	R8 予定	病院の特徴・役割	今後の方針	機能別病床数（2025）			
					機能 区分	現行	変更後	
高 度 急性期			・急性期、回復期、慢性期機能を担う。	・将来の医療需要を見据えるとともに、医師・ 看護師等の限られた医療資源を最大限効率的に 活用するため、回復期病床数を50床減らす。 今後、介護医療院への転換も検討する。（申請 中）	高 度 急性期			令和9年2月実 施予定
急性期	87	87			急性期	87	<u>87</u>	
回復期	143	143			回復期	143	<u>93</u>	
慢性期	76	76			慢性期	76	<u>76</u>	
休 棟					休 棟			
合 計	306	306			合 計	306	<u>256</u>	

病床数適正化事業による病床削減について

構想区域名: 周南保健医療圏

対象医療機関名: 中山医院

1 地域の状況			
地域の現状と課題		周南保健医療圏において、地域医療構想の将来需要に対し、既存の一般・急性期病床は過剰傾向にあります。人口減少や高齢化に伴う医療ニーズの変化に対応し、限られた医療資源（看護職員等）を有効活用するため、実需に応じた病床数の適正化と、外来・在宅医療体制への機能シフトが地域全体の大きな課題となっています。	
2 自施設の状況			
自施設の現状 （変更前）		当院は山口県下松市で皮膚科・泌尿器科を標榜する有床診療所（一般病床19床、スタッフ8名）です。現在、外来患者は1日平均109人と多い一方、入院は1日平均0.2人（平均在院2日）と低迷しています。当院は常時即時の入院受け入れ態勢（人員・設備）を整えた通常病床として維持していますが、地域の需要低下により実際の利用に至らない状態です。この維持管理および24時間の配置負担を解消し、確実な外来ニーズへ経営資源を集中・最適化するため、病床削減が不可欠となっています。	
病床数削減について	削減の内容 削減の理由について	・過剰な維持管理、人員配置負担の解消-入院の受入態勢を整えているものの、実際の入院利用が極めて低い通常病床（17床分）の施設管理や、24時間体制の過剰な人員配置負担を解消して業務を効率化するため。 ・外来機能への経営資源の集中-削減により解放される人的資源を、1日平均109人が来院する皮膚科・泌尿器科の外来診療へ全面的に集中させ、地域ニーズの高い専門外来の質向上を図るため。 ・診療所経営の健全化-実需のない病床数を最適化することで固定費や設備コストを抑制し、2床の有床診療所として持続可能で安定した経営基盤を確立するため。	
	対象の病棟・病床の概要	当院の一般病床19床（個室3床、2人部屋6床等）のうち、入院受け入れ態勢を維持している通常病床17床を削減します。削減後は一般病床2床の有床診療所体制とし、実需に即した効率的な運用で入院医療の提供を継続します。	
	新興感染症に係る協定締結医療機関の確保病床について	新興感染症に係る協定の締結の有無について	協定あり 協定なし
		今回の削減が当該協定の確保病床に与える影響について	
3 病床削減をしても入院医療の継続に支障がない理由			
理由	当院の1日平均入院患者数は0.2人であり、17床を削減しても地域医療への影響は軽微です。削減後は2床の有床診療所として常時受け入れ態勢を維持し、効率的な入院医療を継続します。また、解放される人員を1日平均109人が来院する外来診療へ集中させ、地域ニーズへの確にえます。入院が必要な患者には、近隣の後方支援病院（徳山中央病院等）との円滑な連携体制が確立しているため支障はありません。		

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R6	削減時期	R7	削減時期	R8	削減時期	計
高度急性期							
急性期					17	2026/9/30	17
回復期							
慢性期							
合計					17		17

【参考: R7病床機能報告(周南保健医療圏の状況)】

病床区分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休養・廃止予定	合計
報告	①R7(2025)現状	463	754	789	1,027	23	3,056
	②R8(2026)予定	463	743	813	1,003		3,022
構想	③R7(2025)必要数	223	745	842	737		2,547
④構想との差(R7)(①-③)		240	9	△ 53	290	23	509
⑤構想との差(R8)(②-③)		240	△ 2	△ 29	266		475

対応方針（2025プラン）の変更（中山医院）

病床機能報告における 病床数（7月1日時点）			対応方針（2025プラン）の内容				備考 （対応方針の実 施予定時期等）	
機能 区分	R7 現在	R8 予定	病院の特徴・役割	今後の方針	機能別病床数（2025）			
					機能 区分	現行		変更後
高 度 急性期			当院は下松市で皮膚科・泌尿器科の外来診療を 中心に担う有床診療所です。一般病床2床を維持 して実需に即した初期入院に対応しつつ、高度医 療が必要な際は徳山中央病院等の基幹病院と緊密 に連携する役割を担っています。	一般病床19床のうち17床を削減し、一般病床2 床の有床診療所体制へ移行する。需要の非常に高 い外来診療へ人員を重点配置しつつ、必要最小限 の入院受け入れ体制を効率的に維持する。	高 度 急性期			令和8年9月実 施予定
急性期	19	19			急性期	19	<u>2</u>	
回復期					回復期			
慢性期					慢性期			
休 棟					休 棟			
合 計	19	19			合 計	19	<u>2</u>	